

広報

Nakatsue Village NEWS
Nakatsue Village NEWS
Nakatsue Village NEWS

98 / 1
No.377

なかつえ



▲12月12日に行われた『津江の森』落成式

《村民憲章》

わたしたちは、中津江村民であることに誇りをもち、みんなで力を合わせて、明るく豊かな村をつくるため、この憲章を定めます。

1. 礼儀正しく、思いやりのある村民になります。
2. 自然を愛し、美しい環境をつくります。
3. 健康で楽しい家庭をつくります。
4. 資源を生かし、生産にはげみます。
5. 伝統と文化を愛し、教養をたかめます。

発行／中津江村
編集／総務課企画情報係

も
く
じ

- | | |
|----|------------------------------------|
| 2 | 今年は虎年、年男・年女です |
| 3 | 年頭ご挨拶 中津江村村長 坂本 休 |
| 4 | 年頭ご挨拶 中津江村議会議長 川野 新平 |
| 6 | 年頭ご挨拶 教育長 原田 虎夫 |
| 7 | ふれあいの駅『津江の森』日田市に完成 |
| 8 | 平成10年成人式
新春走ろう歩こう会、広葉樹を育てる会会員募集 |
| 9 | お知らせ・御寄付のお礼・慶弔 |
| 10 | 時松和弘氏 自然との共生を語る |



今年寅年



今年寅年。虎は干支の三番目、食肉目ネコ科の動物です。ライオンが「アフリカの百獣の王」なら、虎は「アジアの百獣の王」です。ウスリー（ロシアと中国の国境地帯）、中国大陸、朝鮮半島、東南アジアなど、温帯から熱帯地方にかけて広く生息していますが、日本列島には野性の虎はいません。



日本の文献に初めて虎が登場したのは『日本書紀』で、欽明天皇の六年（五四五年）に、百済で虎退治をして、その皮を日本に持ち帰った人がいるということが記されています。生きた虎が日本に来たのは寛平二年（八九〇年）といわれ、その後、江戸時代には、虎は見せ物として江戸・大坂（大阪）などを回っていたようです。

多くの人が虎を見られるようになったのは、動物園が普及するようになってからです。しかし、虎はことわざなどによく登場し昔から親しまれています。

だれでも知っている「虎の子」は、大切なもの、秘蔵のものということ。「虎穴に入らずんば虎児を得ず」も、虎の子が貴重なものという意味から、危険を冒さなければ（虎の住んでいる穴に入らなければ）成功は得られないということです。

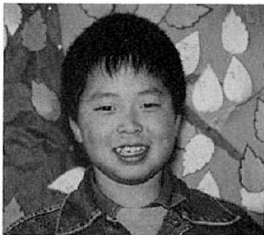
「虎刈り」は、丸刈りがはやらなくなつたので、最近あまり見かけません。

「虎の巻」は、もともとは兵法の秘伝を記した書物のこと。以前は、学生さんなどが参考書などをこう呼んだものですが、この言葉もはやらなくなりました。

また、虎は強いもの、恐ろしいもの、たとえにもよく使われます。「虎視眈眈」「虎の威をかる狐」「虎の尾を踏む」「虎は千里往つて千里還る」「虎は飢えても死肉を食わず」「虎は死して皮を残す」など、枚挙にいとまがありません。ただし、酔っ払いの大トラはいただけません。



年男・年女です



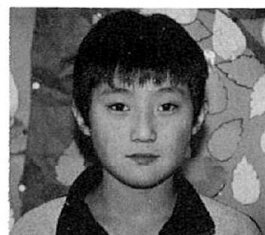
川津 太くん



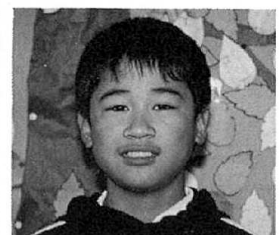
吉本 隆英くん



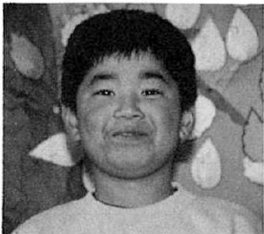
松尾 優美さん



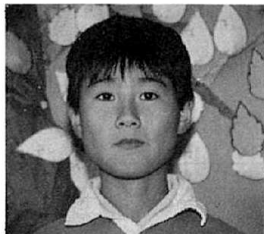
川良 達也くん



川津 貴紀くん



津江 清孝くん



三笥 和裕くん



原田ひとみさん



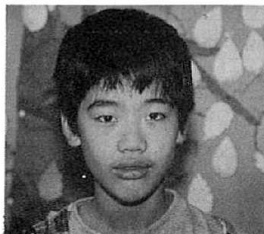
櫛原 快人くん



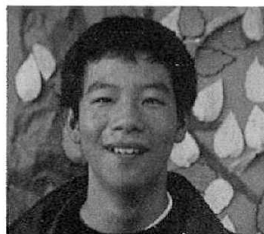
清水 智裕さん



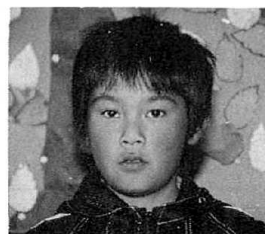
相良 智子さん



谷合 貴洋くん



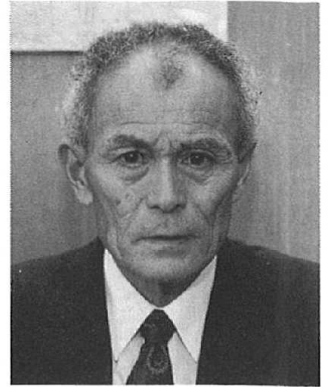
鷹野 英彦くん



永瀬 正博くん



永瀬 美佳さん



村政歴代の発想と苦勞に感謝

さらなる鋭意努力を！

中津江村長 坂 本 休

新年明けましておめでとうございます。

本年が皆様方の、ご健勝とご多幸の年でありますよう心からお祈り申し上げます。

さて、平成も十年、歳月の過ぎ行く早さを感じる傍ら、一つの節目の年かと思えます。時改めて倉凛実ちて礼節を知り衣食足りて榮辱を知ると言う時期かと物事を素直に受け止めております。

一年の計は元旦にありと申しますが百年の中の一年の計を年頭に於いて村政の方向を申し上げます。昨年からの内外ともに変化激しい対応が求められて来ましたが、これは地方山村という脆弱な中津江村におきましては、より厳しくなってくるのが予測でなく現実となりつつあります。厳しいときは、その心構えが大切で、お互いが理解し合い、みんなで考え、力を併せて困難を切り抜きましょう。

村政は基本的には継続的政策となり、歴代の村長や各所管担当執行の施政経過を活かし歴代の発想と苦勞に感謝し、鋭意努力を致しております。こうした中にも時代の変化に伴って変更や改善を行い、

より合理的で経費の節減に努め、効果を追及いたしております。

高齢化の進行をはじめ山村社会の抱える問題は深刻さを増しています。

高齢者の不安解消と所得向上

そうした中、先ず高齢者、殊に一人暮らしの方の不安を解消するため社会福祉協議会と行政が連携して事業を推進しています。また、お医者様やボランティアの方々にも特別なご支援をいただいております。

二番目は生活の安定と向上です。

快適な生活のために福祉・教育・医療・文化施設・ショッピングセンター・レジャー施設を整備することは大事なことです。すぐには実現することが難しい現在、所得政策は極めて重要です。

特に教育費のかかる家庭には安定した所得が確立できるように考え、取り組んでいるところであります。

なお、昨年は人口が増加しましたが出生数、転入者増に

よるところが大きく何十年振りと言えるのではないかと思います。また、転入者の中には昨年一年目となった新規就農事業による転入世帯もありました。

村営住宅は転入者等の受入に重要な役割を果たしてはいますが、平成九年度は三棟の建設に止まりました。今後は單身者住宅も合わせ、大幅な建築を計って行かねばなりません。

行財政改革が与える影響

三番目は行財政改革に伴う中津江村の痛みについてですが、ご存知のように不況の中で大手の金融機関、大企業の大倒産といった社会不安は、多額の債務を負った日本政府に追打をかけている現在、政府は将来のため、これから先の五年間、赤字国債発行ゼロを目指した行財政改革・六項目に着手。国民にも痛みを伴う協力を求める新年になりました。

自治体の財政を見る場合、自主財源は通常、三割自治と言われていますが本村の状況は一割にも到達していません。

歳入は国からの地方交付税に大きく依存しており、村の振興や活性化事業の全てで大きな財源となっている農林業中心の関連補助金は全て昨年度より10%削減の指導が来ています。

そのような状況下、殊に気掛かりなのは道路改良整備の更なる後れです。

しかし、改革される省庁一府十二省庁に建設省と農林水産省が存続することは心強い限りです。

東京を中心とした大都市から農山村に出す補助金は税金の無駄使い、道路も地方には要らないと地方切り捨て論が台頭する誤った方向に動いています。

そのように地方の存在が薄れて行く中であって一生懸命、地方の時代を主張される地方選出の先生方の頑張りは大変頼もしい限りです。

また、全国町村長大会出席の折、霞ヶ関を深夜に通過した際、巨大な官庁街のビルは殆どの窓から光を放ち、官僚と呼ばれる政府役人の深夜迄の仕事を探し、大変な職務だろうと考えながら国民のために実ることを願うものでした。

隣の国では通貨不足から世界銀行より七兆円借金し、日本も六千億円余(五十億ドル)融資しました。

これは国民が物を買い過ぎた結果だと言われています。それに比べ日本国民は一千二百兆円の預金があると言われています。

海外視察を終えて

私は昨年、県の交流事業で中国へいきました。

日本へ嫁ぎたいと言う娘さん達が集まった会に出席しました。美しい、しっかりとした女性ばかりでした。中津江村の独身男性で交流へ出かけられたらどうか、役場に写真と履歴書があります。

また、南アフリカ共和国への視察の際は、自然を活かすとは・幸せとは・何だろうかと考えさせられました。

豊かで世界有数の金鉱山を持ちアパルトヘイトのために世界中から経済封鎖を受けて十三年間、孤立していた国です。

この地はオランダ人が三百五十年前に開拓し、大地が肥沃になると新たな入植者と戦

争が起こりました。オランダ人開拓記念館では侵略者の謀略にあり、開拓農民が武器をとって戦うも幾度と敗れ、追立てられながらも困難を乗り越えてたどりついた開拓地で夢を果した農耕民族としての信念と連れ添った女性達が悪条件の下、子どもを守りながらのプレトリア実現に女性の気高き、忍耐強さを見る事ができました。

また、動物達の生態は想像していたものと大きく違い、草原では巨大なアフリカ象を、またザンベジ川ではカバの姿をあちこちで見ることができ、バッファローを襲ったライオンが逆にバッファローの群中に追い回される光景、ケープ半島へ行く途中では出産に集まったクジラの群れに遭遇し、塩を吹いたり潜水艦と一緒に泳いでいるクジラを見ることができました。

世界一の大瀑布、ピクトリアの滝では、滝のわずか三メートル上流の淀み(日本なら間違いなく立ち入り禁止で厳重な柵が設置されるであろう場所にハイビスカスの花カラズラや細い木が杭にくくり付けられた形ばかりの柵がある

だけ)に少年達が、(遊びで)次々に飛び込む様子を見て背筋が凍る思いをしましたが、そうしたたくましく自由に成長する子供達が大人になった時、どんな国になるだろうと思いました。また、素朴に守り活かされた自然と観光は一度訪れた北欧の人さえも魅了し、親しまれ、後には必ず一年に一度長期滞在の休養をこの地で過ごすそうです。これらの事に無策の策を見た事は貴重な機会でもありました。

沢山の部族で様々な人がいる。川を挟んだり、小高い丘を境に国境がある。この点、日本は清楚な島国で、みんなが少し我慢し、力を合わせ、知恵を出し合えば日本は良くなることでしょう。

昨年の秋から中津江村活性化推進協議会が発足して皆様方の地域へ上がって、ご意見を頂き第一回目の集落座談会が終了しました。総括して、ご報告ができると思います。

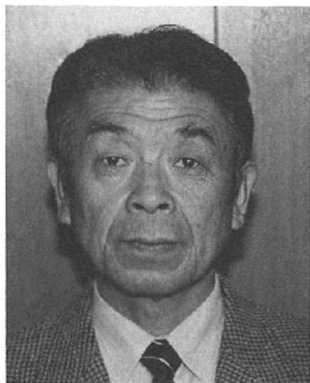
「必ず、やり遂げよう」との熱意とあります。

村民の皆様には暖かい、ご支援をお願いいたします。有難さが分からない飽食の時代に、努力と成果を出すの

は大変ですが、苦勞した汗の生懸命働きますので、ご報告中から知恵が出るとも申しませす。今年も悔いの無いよう一ます。

猛虎の如き邁進を

農林業は今のがんばりが 将来の発展に



中津江村議会 議長

川野 新平

新年あけましておめでとうございます。

平成十年の新年を迎え、村民の皆様方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成九年を振り返って見ますと、国内外に様々なことがあり、平穩無事というより激動の一年であったと思います。アヘン戦争後、イギリスが九十九年間租借してきた香港

が中国に返還されました。そして、一つの国に資本主義と社会主義の二つの体制が執られることになりました。このことは歴史的な出来事です。通貨不安が東南アジアから

発生し、それがお隣の韓国まで波及しております。日本にも少なからず影響しているようです。エジプトのルクソール遺跡で観光客射殺事件がありました。不安定な治安

の国々の攻撃目標が、なんら関係の無い人々にも向けられています。本当に痛ましい事件でした。

大規模なエルニーニョ現象による異常気象が起きています。マレーシアの森林火災、メキシコの百十七年ぶりの大雪はその典型的なものです。日本には暖冬という形で影響が出ています。暖冬そのものは有難いのですが、天候不順になり水不足等が心配され、少なからず民達の生活にも影響があるのではないかと心配です。

百二十余年の歴史をもつ三池炭坑が閉山しました。日本経済の復興の一翼を担ってきたエネルギーの一つである石炭が、歴史の波に飲み込まれ、ついに消えました。一千五百人の従業員が解雇され、再就職も決定していない非常に厳しい状況のようです。

オレンジ共済事件では九十億円の不正流用、使途不明金については二十数億円と、実に中津江村の年間予算に匹敵する額の被害が出ました。当事者の金銭感覚には驚くばかりです。

政府の景気対策の不十分さ、

不透明さにより、景気回復の見通しは悪く、長く暗いトンネルから抜け出せない状況で、ビックバンを控えた金融界では都市銀行である北海道拓殖銀行が倒産、さらに証券界きつての老舗である山一証券の廃業などで試練の時を迎えています。

なお、地方分権が囁かれています。委譲されたらどうなるでしょう。

政府機関は財政再建（行財政改革）に着手しましたが、地方自治体としては権限は与えられてもその権限に伴う財源をまらずと頂かないと本当の分権ではないと思います。財政の厳しい自治体においてはこれから人材能力が一段と問われる試練の時代を迎えることとなります。

また、私達に直接関係してきます介護保険法が成立しました。四十歳以上になれば一定の保険料を支払わなければなりません。この制度で救われる人がどの程度いるのでしょうか。そして、その後どのような効果が現われるのか予想ができません。しかし平成十二年から施行されます。地方自治法施行五十周年記

地方自治法施行五十周年記

念式典で中津江村から二名の方が表彰されました。これまでのご苦労に対して感謝するとともにお祝い申し上げます。中津江村の主幹産業は何かと問われたとき当然農林業と答えます。しかし、農林業を取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。この状況は日本全体に共通しています。厳しければ厳しいほど一生懸命頑張らなければならないと思います。特に林業は今頑張つて将来の展望を広げて欲しいと思います。

村内の農家、林家におかれましては特にご苦労が多いと思います。今年のご干支であります寅にあやかり邁進していただきたいと思えます。J-ITターン事業で新規就農者の方が来られています。中津江村を選んで下さったことにお礼を申し上げ、喜んでお迎えするとともに本村に新しい風を吹き込んで頂くことを期待してやみません。

商工業、建設業、製造業におきましてもご苦労されていると思えます。産業の振興は役場、農協、森林組合、商工会等、職場と力を合わせていかなければなりません。



鯛生金山では、現在リニューアル事業の内、砂金採取場の整備が施工されています。体験型観光でもある砂金採りは金山の魅力アップに繋がります。入坑者の増加も期待できます。中津江村は高齢者の方の割合が高く、福祉の充実に努めることも大切ですが、福祉に限らず教育においても「もの」だけでなく「金」だけを与えることで成果が現われるのではなく、私達一人一人が日頃から心で接して行くことが大切です。私達の生活・仕事が厳しいときこそ、思いやりを大切にしていくなることが必要です。

私達、議員といたしましては心と思いやりを大切にしてお中津江村がさらに豊かで住みやすい村になるよう努力して参りますので、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。皆様にはご活躍とご健勝を祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。

合格おめでとう!!!
全国商工会珠算検定

- 四級 森下 徳 是
- 中井 祐 輝
- 中井 直 輝
- 五級 櫛原 快 人
- 六級 松尾 優 美
- 七級 安岡 瞳
- 八級 永瀬 晴 奈
- 櫛原 葵 春
- 清水 鮎 美



映画上映のお知らせ

一月二十三日、アニメ映画「どんぐりの家」を上映します。

- 上映時間と場所
- 午前の部 津江中学校
 - 午後の部 中津江小学校
 - 夜の部 村民ホール

なお、詳細な時間等については、中津江村教育委員会にお問い合わせ下さい。

電話 五四一三七二二

将来を担う子どもを 如何に育むか一緒に 考え合おうではありませんか



教育長 原田 虎夫

平成十年の年頭にあたり、全村民の皆様が、本年も輝かしい年を迎えられましたことを心からお慶び申しあげます。さて本年は特に、平素より親しくお話し合いができてくれた日田郡の学校教育や社会教育（体育）の在り方について、お話し申し上げ、皆様のご理解を賜りたいと思いません。

第十七回ふるさとまつりのテーマが「やってみましょう、誇りと愛着のある村づくり」のように、最近では「子どもが変われば親が変わる、親が変われば地域が変わる」と言われております。正に地域づくりは人づくりからの言葉のとおりです。村民みんなで村づくりをやるうではありませんか。

骨子のようであります。

教育の近代化と

日田郡の特殊性

このような時代に先ずは、わが日田郡の様子を知ることが必要かと思ひ、以下にその一部をお話致したいと思ふところです。

日田郡では他県に先だつて、昭和四十二年に教育の改革を行つております。

教育の近代化、現代化を願ひ、教職員の力量の重要性、専門性を重視し、日田郡の特殊性を考慮し、どうあることが日田郡の教育を高めることになるのか、子どもの学習向上につながるのかが問われるわけです。そこで生まれたのが「日田郡は一つ」の考えから「日田郡地教委連絡協議会」という組織であります。

この組織は各町村の学校教育、社会教育の運営にあたり、先ず日田郡教育委員会が連絡協議会事務局と日田郡学校教育、社会教育、社会体育の行事等の計画を練り日田郡町村長会の了解を経て（総会）、日田郡小・中学校長会と十分に検討し合つて、日田郡の小・

中学校のバランスを考えたい。えで各町村の学校運営がなされるわけです。その運営の基金については各町村の人口割合により出資していただいております。

効率のよい

事業実施

何故、このような組織づくりをしたかのもうひとつの大きな理由として、教育行政機関の事務内容は非常に多岐にわたるわけで、小規模町村の多い日田郡の場合には、共同でその事務処理をした方が効果的なもの、諸々の行事も各町村ではとうてい困難を来すもの等があり、共同あるいは合同で実施しているわけです。

例えば、学校教育では事務所の指導主事の先生の指導回数も限度があり、日田郡ではこれではいけないということ、連絡協議会の事務局が指導主事も兼ねております。他に社教主事、社会体育主事もおり、指導回数も年間のトータルでは百回を超して非常に有効なわけです。

社会教育、体育面では青少年関係から青年団、婦人会ま

で体育面でも少年少女スポーツ大会から郡体、県体、駅伝、ミニバレーに至るまで全て地教委連絡協議会が中心となり企画運営をやっております。また、日田郡では小・中学生の集団検診から中体連関係、合同修学旅行に至るまでを地教委連絡協議会が行つております。

仮に、中学校の修学旅行を各町村で実施すれば、その費用は現在より何割も割高となつてしまいます。

なお、地教委連絡協議会の事務内容の一部ですが紙面の都合で項目のみを記すことをご了解ください。

地教委連絡協議会の事務内容

（地教行法二十三条による）

内容(1)

職員の内免、その他、人事に関する事。

管理職、教職員の郡統一的視野に立ち中立的な立場で
行える。

内容(2)

教育課程、生徒指導に関する

ること。
日田郡の特色を生かす。一般方針を立てる。各町村はそれに従い独自の方針を編成する。

共同研究、共通理解、共同実践、学校管理、運営の統一

内容(3)

教科書、その他教材に関すること

教科書選定委員の決定
教材教具の選定

内容(4)

校長、教員、その他職員の研究に関すること

郡研(小中)各教科：年四回(最も重要な研修としている。)

講演会、県外研修、他

内容(5)

保健安全、厚生に関すること。学校保健会(学校、PTA、医師会大病院、教委の連携)

生徒指導委員会(安全、非行防止)

内容(6)

社会教育に関すること

内容(7)

社会体育に関する大会(郡市、県内一周、婦人ミニバレー)

ジュニアリーダー研修、青年リーダー研修、生涯学習フェスティバル、青少年団体リーダー研修、郡婦連リーダー研修、社会教育委員研修他

以上、日田郡の学校教育、社会教育について簡単に説明しましたがその中であつて、中津江村の現状をご理解いただけるものと思います。尚、各校の細部にわたつては、いろんな場で学校の先生方からのお話もあるかと思いますが、今、日田郡においても時代の先取りをすべく、地教委連絡協議会をもつともつと改善すべきは改善し、本当に日田郡の将来を担う子どもたちを如何に育んでいくかを皆様と考え合おうではありませんか。



中津江村生産直売施設

ふれあいの駅「津江の森」

日田市に完成

十二月十二日、日田市高瀬のバイパス沿いにて中津江村生産物直売施設、ふれあいの駅「津江の森」の落成式がありました。

「津江の森」は地元特産物の展示販売を行うとともに、施設内に中津江村案内装置(タッチパネル)を設置し村の観光案内を行い、この地を訪れる観光客の目を中津江村に向けさせ、中津江村へ呼び込むことにより、中津江村の特産物の販売促進及び農林業、商業、観光に対する活性化を促すことを目的としています。

また、位置的には、「日田一品街」に隣接し、中津江村への交通の入口であるところから集客数も期待できます。

建物は蜂の巣ログハウジング(榎建築)によるログハウスであり建物自体も中津江村が日田杉の生産拠点であることをアピールしています。



▲オープン式典より

平成10年

成人式

1月2日に開催

例年八月に開催していましたが成人式を平成十年から一月二日に開催することとなりました。

今回、中津江村で成人式を迎える方は十六名です。

開催時期の変更は対象者に希望をとつた結果であり、成人の日(一月十五日)を希望される人もいましたが、遠方に行っている人が多いため、帰省時期である一月二日となりました。

新成人の方には是非、ご出席されますようお願いいたします。

なお、時間、会場は次のとおりです。

日時

平成十年一月二日

午前十時開始

会場

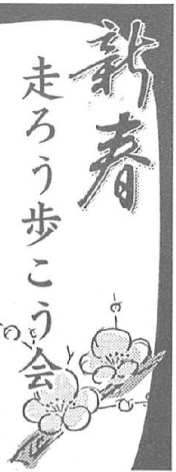
中津江村役場

大会議室

平成十年 成人者名簿

昭和五十二年四月二日
昭和五十三年四月二日生れ

出身集落	氏名
栃原三	合谷 仁
辛味	杉野 由知
宮田	高倉 里美
合鶴	長谷部松由
栃原三	合谷 吏加
梁瀬	杉野聖一郎
梁瀬	穴井 千暁
栃原三	梶原 靖宏
鯛生三	田島 竜平
丸蔵	杉本 充寛
八所	高野興一郎
中村	久野久美代
栃原三	諫山 洋美
鯛生三	長谷部美穂
中西	古澤 真一
野田	矢野 正治



一月十五日に開催

中津江村新春の恒例行事となった、「新春走ろう歩こう会」が今年も開催されます。

最近では村内のあちこちでウォーキングをされている方の姿を目にします。この大会に参加して、いつもとは違う人と違うコースをウォーキングされるのはいかがでしょう。

また、タイム宣言レース(自分の言った時間と実際にかかった時間の差で順位を競いますのでマイペースで

レースに望めます。ファミリー賞、がんばったで賞などもありますので、皆さまのご参加をお待ちしています。

開催日時……一月十五日

受付……午前九時三十分～

スタート……午前十時三十分～

参加料……無料

コース……Aコース 三km

(小学生以下の部)

Bコース 三km

(中学生以上の部)

Cコース 五km

(年齢制限なし)

なお、場所を含めた詳細は教育委員会にお問い合わせ下さい。

電話 五四―三三二二

「広葉樹を育てる会」 会員募集

中津江村、上津江村の幹線道路沿いの自然環境改善と広葉樹育成の促進を目的として平成8年10月「広葉樹を育てる会」が発足しました。

これまでの主な活動としては、津江中グラウンド法面に広葉樹の苗木を350本植樹しました。

将来は両村の誇る溪谷と清流のすばらしさを広葉樹で彩り、四季を通してアピールできるようにすることが会員一同の夢です。

現在、中津江村からは15名の加入がありますが、この会の主旨に賛同される方があれば、どなたでも歓迎しますので、是非ご加入いただくようお願いします。

●問い合わせ先

会長 猪野丹佑 (電話 56-5061)
事務局 中元富太 (電話 54-3901)

お知らせ

募集

大学等卒業予定者就職面接会を開催

大分県では、ふるさとでの就職を希望する皆さん（平成10年3月大学・短大・専修学校等卒業予定者、未就職卒業者等）と、地元企業とが直接に情報を交換し就職面接ができるよう、下記日程により就職面接会を実施しますので、ご希望の方はぜひ参加して下さい。

- 日時
平成10年1月19日（月）
13：00～
- 場所
大分市大手町3-1-1
大分県共同庁舎
14階大会議室
- 対象者
平成10年3月卒業予定の大学生等
- 企業申込・お問い合わせは、お近くのハローワーク（公共職業安定所）へ
電話（日田公共職業安定所）
23-4123



巡回生徒指導相談

大分県教育委員会では、いじめや登校拒否等、生徒指導上の問題について巡回生徒指導相談を実施します。

- 日時
平成10年1月27日
10：30～14：30
- 場所
日田総合庁舎
- 対象
小学校、中学校、高等学校の教職員及び児童・生徒の保護者
- 相談内容
 - ・登校拒否やいじめ等の理解や対応について
 - ・問題行動の指導や援助について
 - ・しつけや日常生活上の諸問題について
 - ・学校における生徒指導上の組織及び指導について
 - ・その他健全育成について
- 相談員
教育、心理学、児童福祉、青少年指導の各専門相談員
- 申込・問い合わせ先
中津江村教育委員会
電話 54-3722



年末年始の火災予防

年末年始にかけては何かとあわただしくなり、ちょっとした不注意で火災が発生することがあります。この時期は空気も乾燥しています。火の取扱には、十分注意しましょう。

- ◎日常の防火チェック！
 - ・出かける時は、火の始末、スイッチの切り忘れなど、もう一度確かめましょう。
 - ・天ぷらを揚げる場合など、油の入った鍋を火にかけたら、絶対にそばを離れないようにしましょう。
 - ・灰皿のタバコの吸殻が、完全に消えているかどうか必ず確認し、安全な容器に捨てましょう。
 - ◎屋外での火の取り扱いは、次のことに注意しましょう。
 - ・風の強い日、空気が乾燥している日には、たき火をしない。
 - ・まわりに燃えやすいものがないか、よく注意する。
 - ・必ず水バケツや消火器などを用意して行う。
 - ・その場から離れないようにする。
- 各種行事や大掃除などで、日頃より多量のゴミがでます。ゴミの焼却は、一度に行わず少量ずつに分けて行いましょう。

平成10年度中津江村消防団出初式

平成10年1月6日 午前9：30～
会場 津江中学校グラウンド
予習 1月5日
午前9：00～
津江中学校グラウンド

〔御寄付お礼〕

■社会福祉協議会へ
〈香典返し〉

永瀬 源似 様

一〇〇、〇〇〇円

〔一般寄付〕

大分県建設業協会

日田支部 様

七〇、〇〇〇円

〔慶弔〕

●お悔やみ申しあげます

原 永瀬 キミ工様

自然から得た体験談に聴講者も共感

時松和弘氏、自然との共生を語る

十二月三日、村民ホールで中学生を対象とした教育講演会（主催・津江中学校、同PTA、後援・中津江村教育委員会、中津江村保健連絡会）が行われました。

十二月三日、村民ホールで中学生を対象とした教育講演会（主催・津江中学校、同PTA、後援・中津江村教育委員会、中津江村保健連絡会）が行われました。

九重町から時松和弘氏を招いて「自然と友に生きる」をテーマに九重弁により自身の体験を通しての貴重な話を聞くことができました。

蜂の巣で その年の天候を知る

気象予報では今年台風が多いと予報し、確かに多かったが風の被害は少なかった。時松氏は蜂の巣が高い所に掛けられているのを見て、そのことを知っていた。自然と触れあうと様々なことがわかる。

合鴨の話

通常鴨の肉は価格が高く、アヒルの肉は価格が安い、合鴨はアヒルと真鴨を交配させて生まれたものであり、市場に出ている合鴨は合鴨同士を何代も交配させているため限りなく真鴨に近い合鴨と限りなくアヒルに近い合鴨が一緒に出回っているが消費者は誰も気付かない。

地鳥の話

地鳥は生まれた時から外に放され飼われた鳥であるが、

市場に出回っている地鳥の中にはケージで飼われ卵を産めなくなった茶色の鳥が地鳥として売られていても、その肉を刺身で食べれば、その違いがわからない。また最近では、鳥（食肉用）の品種の名称を変えただけで価格が高くなったりもしている。

それが本物かわからない時代である。

プラネタ

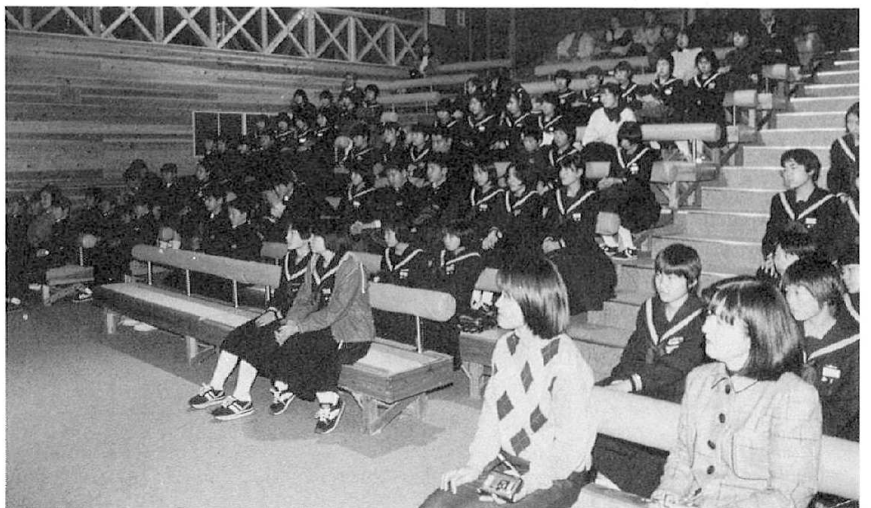
リウム

田舎に住んでいる子は夜空を見上げれば星を観察することができる。

しかし、わざわざ都会に出向き昼間プラネタリウムに入り天体学習をしている。

山のトイレ

毎年、都会から来る中学生の久住登山にガイドとして同行しているが最近の中学生はトイレ以外では用を足すことができない。様々な体験談を話され物



事に対する価値感の在り方を考えさせられました。

そして、最後に「せっかく田舎で暮らすなら、その生活を楽しみ、都会人に対して胸を張って田舎人と強調して生きよう。」と呼びかけました。

どの生徒も時松さんの話を興味深く聞いたようでした。

今回の講演で田舎の良さを認識した生徒もいたのではないかと思います。



時松和弘氏